

平成29年度「^{おんてこ}鬼太鼓の森」再生プロジェクトの取組

関東森林管理局 会津森林管理署 森林整備官 江川 未来
(元 下越森林管理署)
下越森林管理署 一般職員 中島 千嘉

1 課題を取り上げた背景

『^{おんてこ}鬼太鼓の森』は国民参加の森林づくり活動による「木の文化を支える森づくり」の一つで、平成19年1月に佐渡市長を会長とする「鬼太鼓の森づくり」協議会と当署が協定を締結し、佐渡市の伝統芸能である「鬼太鼓」に使用される太鼓やバチの材料となるケヤキやホオノキ等を育て、将来その木で作られた太鼓の音が島中に響き渡ることを願い、造成されました。

平成28年6月に当署職員をメンバーとするプロジェクトを立ち上げ、植栽木の生育不良や市民の関心の低下といった問題点を解決するため、造林班、参加者班等に分かれて活動を行ってきました。具体的な取組として、造林班では文献・現地調査、ケヤキ人工林の好事例調査、専門家への聞き取り等を行い、新規造林計画案を作成しました。参加者班では、市民の関心を高めることを目的に、イベント開催に向けて、歩道整備等の検討、地域おこし協力隊に対する当プロジェクトへの協力要請等を行いました。29年度は、新規造林計画に基づき植栽木の光環境改善に向けたスギの伐採や市民が参加するイベントを開催したので、その活動を報告します。写真1：スギを伐採した植栽地



2 取組の経過

(1) 造林班：スギの伐採、各種調査等

日照不足の原因となるスギの伐採に向け、現地調査や手続等を進め、

9月に協議会による伐採が行われました。また、生育不良の原因の一つである雪害の対策について専門家や苗木生産者からの助言を受け、植樹イベントにて参加者によるケヤキの植栽を行いました。

(2) 参加者班：イベントの開催等

29年度のイベント開催に向け、まずは地域おこし協力隊へ協力を要請しました。また、イベント内容を検討し、参加者を募るPRパネル・チラシを作成するとともに、佐渡市広報への掲載を行いました。さらに現地においては、一般参加者の安全を確保するため、仮設橋の設置、歩道の整備を行いました。

以上のような取組を協議会事務局（佐渡市）と連携して実施しました。

3 実行結果

スギ伐採前後で光環境を調査した結果、植栽木の光環境の改善が見られました。また、地域おこし協力隊に協力要請を行った結果、イベントの企画段階から協力が得られ共同でイベント準備を行いました。そして、10月に『鬼太鼓の森』ケヤキ植樹イベントを開催し、植樹の他、鬼太鼓の演舞鑑賞、コースター作りを実施しました。さらに協力隊が鬼太鼓と世界農業遺産に関する発表も行い、写真2：植栽イベントの様子 充実した内容となりました。



4 考察

佐渡市及び地域おこし協力隊と連携してイベントを開催し、『鬼太鼓の森』についてPRすることができました。また、子供の参加もあり、今回の植樹やコースター作りは良いプログラムであったとの意見もありました。30年度に向け、さらなる市民の参加を図るため、より効果的なPR方法やイベント内容を検討し、引き続き、光環境改善に向けたスギの伐採や植栽した苗木の成長量調査等も実施していく予定です。